



平成28年9月16日

医療政策課感染症・がん対策班  
担当：竹野  
内線：2466  
電話：095-895-2466(直通)

## 流行性角結膜炎感染症に注意しましょう ～医療機関あたり患者報告数7.13人となり警報値に迫る～

平成28年第36週(9月5日～11日)の眼科定点あたりの流行性角結膜炎の患者報告数(平均患者数)が「7.13」※となり、警報レベルの「8.0」に迫る流行状況となっています。

保健所管内別の患者数は、佐世保市保健所では31人、県央保健所では13人の患者が報告されています。

流行性角結膜炎は、アデノウイルスによる眼の感染症です。症状は、まぶたが腫れる、充血、涙が出る、目やにが多くなる等の症状が起こります。

アデノウイルスは、患者の涙や目やにを触れた手指から接触感染します。感染力が強いため、患者は不用意に眼を触ることを避け、眼の分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、周囲に感染を広げないことが大切です。

小児の患者が多く報告されていますが、家族内感染による成人の患者も報告されています。手洗いを励行し、タオルの共用を止め、ドアノブ等を消毒して、感染拡大を防ぎましょう。

※県内報告数：57(人)／県内眼科定点医療機関数(8施設)＝7.13

### 【流行性角結膜炎とは】

#### 病原体

- アデノウイルス(今年は過去5年間流行がなかった54型が主流)

#### 潜伏期間

- 8～14日間

#### 症状

- まぶたのむくみ、結膜の充血、まぶたの裏側のぶつぶつ、流涙、目やに、耳前リンパ節の腫脹・圧痛

#### 感染経路

- 患者の涙や目やにを触れた手指を介して接触感染します。
- 不用意に眼や口を触る経路で感染します。

#### 予防策

- 日ごろから、石けん・流水での手洗いを励行しましょう。
- 患者の眼や涙が触れるタオルや枕、目薬等の共用は止めましょう。
- おもちゃの共用は避けましょう。
- 患者のお風呂は最後に入浴しましょう。

## 【直近の県内の流行性角結膜炎患者報告数(眼科定点がある保健所管内別)】

2016年	全国	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	五島
定点医療機関数	691	8	3	1	1	1	1	1
第36週 (09.05~09.11)	1 (692)	7.13 (57)	3 (9)	31 (31)	3 (3)	13 (13)	1 (1)	0 (0)
第35週 (08.29~09.04)	0.9 (624)	6 (48)	3 (9)	30 (30)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
第34週 (08.22~08.28)	0.95 (655)	4.75 (38)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)
第33週 (08.15~08.21)	0.79 (535)	3.38 (27)	1.67 (5)	17 (17)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)
第32週 (08.08~08.14)	0.62 (409)	2.75 (22)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※表内数値の上段は定点当りの患者報告数、下段( )内は患者総数(人)

## 【定点医療機関からの年齢別患者報告数(人)】

	0-9 歳	10-14 歳	15-19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60代 以上	計
第36週	26	1	0	3	10	7	3	7	57
第35週	29	5	0	3	7	3	1	0	48
第34週	20	2	1	2	6	3	2	2	38
第33週	18	0	0	1	7	0	0	1	27
第32週	17	0	0	0	4	1	0	0	22

## 【ウイルス検出情報】

国立感染症研究所 病原微生物検出情報(9月9日現在)によると、流行性角結膜炎の患者から分離・検出されたウイルスは、2015年以降アデノウイルス54型の検出報告が増加しており、現在の流行の主流となっています。

長崎県では、これまでに4検体からアデノウイルス54型が収集検出されています。

## 【国立感染症研究所が定める流行性角結膜炎流行レベルの目安】

【警報レベル: 定点値8.0を上回った時】

- 眼科定点医療機関あたりの1週間の報告数が「8.0」以上の場合、大きな流行の発生、または継続しつつあることが疑われることを表します。なお、警報は1週間の報告数が「4.0」となるまで継続し、「4.0」を下回った時点で自動的に解除されます。

長崎県の流行性角結膜炎の発生動向（2016シーズン 第1～36週 9月5～11日 現在）

